４歳児／５歳児クラス ＜10月 ゴッホ「星月夜」＞



やさしい K-ART

テーマ《ゴッホ「星月夜」ワーク》

ゴッホの中でも有名な作品のひとつ「星月夜」
おなじみゴッホの筆使いを表現しましょう。

＜テーマを決める＞

だんだん涼しくなってきたし、暗くなるのも早くなってきて、夏から秋に変わっているよね。
夜の空ってなんだか静かな感じがするけれど、夜、空を見上げたことはあるかな？
今年は9月25日が「お月見」だったけど、夜空を見上げると月や星が見えることもあるね。
ゴッホが描いた《星月夜》を見てみると、びっくり！
星や月が大きく輝いて、空にはぐるぐる、うねうねした線がいっぱい。
まるで空全体が動いているみたいに見える。ゴッホは、本物の夜空をそのまま描くのではなく、自分が感じた夜の美しさや気持ちを、色や線で表したんだって。
「同じ夜空でも、見る人によって違って見えるのかな？」
ゴッホが感じた夜空をよく見ながら、色や線を重ねて《星月夜》の世界を作ってみよう。

＜問いを考える＞

「夜の空は何色だと思う？」「黒だけかな？青や紫も見つかるかな？」
「ゴッホの星は、本物の星と同じかな？」
「どうして星のまわりにも線がいっぱいあるんだろう？」
「このぐるぐるしたところ、何が動いているように見える？」
「風が吹いているとしたら、どっちに吹いていると思う？」曇りや風などで見え方が変わる
「静かな夜なのに、どうしてこの絵は動いているように見えるんだろう？」
「まっすぐな線と、ぐるぐるした線では、どっちが動いて見える？」

1．フレーム
2．キットパス
3．ベビーパウダー
4．下絵付き黒画用紙
5．糸杉プリント
6．スティック糊
7．見本プリント



＜環境をデザインする＞

《星月夜》の見本と下絵付きの黒画用紙を用意し、暗い夜空の中で月や星の黄色・白がどのように見えるかを観察できるようにする。
キットパスを使って、点、短い線、長く流れる線、ぐるぐるとうねる線など、さまざまな描き方を試しながら色を重ねることで、「線によって空の動きが変わって見える」ことを体験できるようにする。
また、糸杉や村など複雑な部分はパーツとして準備し、子どもたちがゴッホの特徴である「色の重なり」と「力強い線」に集中できる環境をつくる。最後にベビーパウダーで磨き、重ねた色や線が変化していく様子も楽しむ。

４歳児クラス ＜10月 ゴッホ「星月夜」＞実施報告









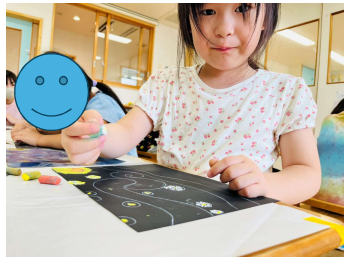
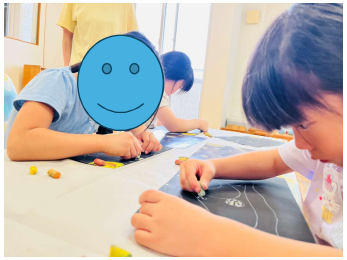


10/20【北町アンジェリカ保育園】年中：14名《ゴッホ「星月夜」》

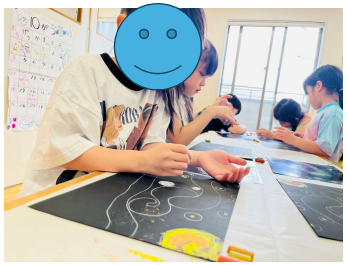
今月はゴッホの『星月夜』をテーマに制作しました。「9月に描いた『ひまわり』の作者は誰か覚えているかな？」と聞くと「ゴッホ！」と答えてくれ、前回学んだ事をしっかりと覚えている姿が見られました。「今回の作品の作者もゴッホだよ。」と伝え、見本の『星月夜』を見せると「映画で見た！出て来た！その映画にムンクも出て来たんだよ！」という声が聞こえてきました。「この空はいつの空かわかるかな？」と問いかけると「夜！」「だって空が暗い感じ！」「月が出てる！」と絵をよく観察して答えてくれました。また「実際にこんな空、みんなは見た事ある？」と問いかけると「な～い！」と返事してくれました。「実際に見た空をそのまま描いたのではなく、夜の美しさやゴッホの強い思いを表現していると言われているよ。実際に見えたものとは違う表現も素敵だよね。」と話すと興味深そうに話を聞いていました。

制作では、まず月や星の中心など目立つ色から塗り、次に目立つ色(白)の線をたくさん描いていきます。
白い線のあとは、紺、青、水色などの青系の色で空の線を描いていきます。「月のまわりは空の色が明るい感じがするね！」と伝えると、明るい部分には青と水色多め、暗い部分には紺を多めに使うなど、それぞれ工夫しながら色を重ねていきました。「ちょっと難しい…」と伝えてくれた子には、必要に応じて手助けをしながら進めました。初めは不安そうな表情を見せていた子も、次第に明るい表情になり、完成した時には笑顔が見られました。完成した作品をフレームに入れると「僕の作品かっこいい！」「たくさん線かけたぞ～！」と嬉しそうな声があがり、たくさんの笑顔が見れました。

5歳児クラス ＜10月 ゴッホ「星月夜」＞実施報告






10/20【北町アンジェリカ保育園】年長：13名《ゴッホ「星月夜」》
今月はゴッホの『星月夜』をテーマに制作しました。見本の『星月夜』を見て歓声があがりました。
「映画で見た事ある！映画に出てきた！」といった声も聞こえてきました。また「実際にこんな空、みんなは見た事ある？」と問いかけると「ない！」という声が多く聞かれた一方で、「見たことあるよ！」と答える子もいました。「実際に見た空をそのまま描いたのではなく、夜の美しさやゴッホの強い思いを表現していると言われているよ。実際に見えたものとは違う表現も素敵だよね。」と話すと興味深そうに話を聞いていました。

制作では、まず月や星の中心などの目立つ色から塗り、次に目立つ色(白)の線をたくさん描いていきます。「前回描いたモネの『黄昏』で、繰り返しクルクル描いたの覚えてる？」と聞くと、「くるくる描いた！」と前回の事を覚えていました。
「前回はくるくるだったけど、今回は線をたくさん描いていくよ！」と伝えると、理解して線をたくさん描くことを意識してくれました。白い線のあとは、紺、青、水色などの青系の色で空の線を描き、見本をよく観察しながら更に色を重ねていきます。「うすむらさき色きれいだね～」と色を気に入ったり、「黄色と青が混ざって、緑っぽくなってるんじゃない？」と作品の中からさまざまな色を発見し、自分なりに色を重ねて表わしていました。
完成した作品はフレームに入れ、みんなで「せーの！」の掛け声と共にお披露目しました。
お友達と作品を見せ合いながら、とても嬉しそうな様子が見られました。